

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度

運用期間2023年7月～2024年6月



株式会社 甲斐建設

2024年8月27日 発行

《 目 次 》

運用	1. 事業概要	2
	1) 事業者名及び代表者	2
	2) 所在地	2
	3) 環境管理責任者	2
	4) 連絡先	2
	5) 事業活動の内容	2
	6) 認証登録範囲	2
	7) 事業規模	2
	8) 推進組織図	2
	2. 環境経営方針	3
	3. 環境経営目標	4
	4. 環境経営目標の実績	4
	5. 環境経営計画と取組結果及びその評価	5
	6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	6
	7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
	8. 代表者による全体評価と見直しの結果	8
	9. エネルギーとCO2の推移（2009年度～2022年度）	8

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 甲斐建設
代表取締役社長 甲斐 秀樹
専務取締役 甲斐 秀二

2) 所在地

〒883-1604 宮崎県 東臼杵郡 椎葉村 大字松尾 1399

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 甲斐 たつみ

4) 連絡先

連絡担当者 : 甲斐 たつみ (EA21責任者)
TEL : 0982-67-1848
FAX : 0982-67-1748
E-mail: kaiken23@peach.plala.or.jp

5) 事業活動の内容

建設業(土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、管工事業、水道施設工事業、
石工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、しゅんせつ工事業)

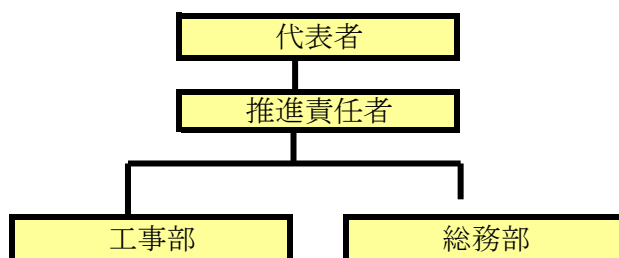
6) 認証登録範囲 ……(全社・全組織・全活動)

- ・対象組織…本社(関連事業所なし)
- ・対象活動…建設業(土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、管工事業、水道施設工事業、
石工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、しゅんせつ工事業)

7) 事業規模

項目	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	6	8	5	5	7	6	9
従業員数	16	16	16	16	15	15	15
事務所床面積(㎡)	140	140	140	140	140	140	140
倉庫面積(㎡)	50	50	50	50	50	50	50
資材置場面積(㎡)	250	250	250	250	250	250	250

8) 推進組織図



基 本 理 念

私達は、環境問題を最も重要な課題と位置付けて、
エコアクション21に取り組むことで、循環型社会の構築に努めます。

環 境 経 営 方 針

私達は、建設業としての事業活動を通じて、以下の事項について、
全社員一人一人が、自主的、積極的に取り組み、継続的な環境負荷の
削減を図ります。

- 1・環境経営目標、環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。
- 2・環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域の要請
に協力します。
- 3・土木建設業において、環境に与える影響を削減するために
次の事項に対して、優先的に取り組みます。
 - ① 化石燃料や電気使用量節減による、二酸化炭素排出量の削減
 - ② 作業所及び事業所で発生する廃棄物の分別と削減
 - ③ 建設現場から排出される廃棄物のリサイクル推進
- 4・安全且つ効率的な施工、及び環境に配慮した施工に努めます
- 5・地域貢献活動や環境美化活動へ積極的に参加します
- 6・環境経営方針は当社全従業員に周知するとともに一般に公表します。

制定;2012年 7月10日

改定;2019年 7月 1日

改定;2021年 7月 1日

株式会社 甲斐建設

代表取締役 甲斐 秀樹

3. 環境経営目標

過去3年間(2018年7月～2021年6月)の実績平均値を新たな基準値として、第五次の3ヶ年中期目標を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境経営目標			
		基準値 (2018年7月～ 2021年6月 実績平均)	2022年度 (2022年7月～ 2023年6月)	2023年度 (2023年7月～ 2024年6月)	2024年度 (2024年7月～ 2025年6月)
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)	全社	198,805	196,831	194,857	192,884
省エネルギー項目	①電気使用量の削減(kWh)		基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減
	事務所	5,988	5,958	5,928	5,898
	②ガソリン使用量の削減(L)		基準比1.0%削減	基準比2.0%削減	基準比3.0%削減
	事務所	6,975	6,905	6,835	6,765
	現場	9,787	9,689	9,591	9,493
	全社	16,762	16,594	16,426	16,258
2 削減 の 廃棄物の	③軽油使用量の削減(L)		基準比1.0%削減	基準比2.0%削減	基準比3.0%削減
	現場	60,870	60,261	59,653	59,044
	①一般廃棄物の削減(kg)		基準比1.0%削減	基準比2.0%削減	基準比3.0%削減
	全社	127.9	127.3	126.6	126.0
	②建設副産物のリサイクル向上		95%	再資源化率=95%以上	
現場					
3. 水資源使用量の削減(m3)	全社	山水使用のため 未計量	節水の励行		
5. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上	全社	—	関連する環境経営計画を遵守する		

*建設副産物の再資源化率算出式は、再資源化量÷総排出量×100

*水資源は山水を使用し計量していませんが、『節水の励行』を目標としています。

4.環境経営目標の実績

*2023年7月から2024年6月までの1年間の実績は以下の通りです。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	目標値	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		全社	194,857	120,962	161.1%	○
	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	5,928	6,218	95.3%	○
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	6,835	4,914	139.1%	○
		現場	9,591	9,289	103.3%	○
		全社	16,426	14,203	135.1%	○
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	59,653	32,956	181.0%	○
2 削減 の 廃棄物の	①一般廃棄物の削減 (kg)	事務所	126.6	59.0	214.6%	○
	②建設副産物の リサイクル率向上(%)	現場	95.0%	100.0% (71.02t)	105.3%	○
3. 水資源使用量の削減 (m3)		全社	節水の励行	節水しています	—	○
5. 自らが施工する土木建築物の環境 性能の向上		全社	環境経営計画を遵 守する	環境経営計画を遵 守しました	—	○

*購入電力の二酸化炭素排出係数は令和4年1月環境省公表の九州電力の調整値 0.480を使用しています。

*事務所や現場の灯油消費量を含めた全社の二酸化炭素総排出量は 121,535.0 kg-CO₂でした。

*評価基準 達成率95%以上＝○、85%以上は△、85%未満は×

5. 環境経営計画と取組結果及びその評価

取組項目	活動内容	取組み状況	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	・蛍光灯を全てLEDに交換してこまめな消灯や照明器具の定期清掃、及びクールビズ、ウォームビズを心がけ、エアコンの温度管理を徹底して節電をしましたが、年度末に事務作業が増加して、年間では95.3%の目標未達成となりました。	○
	②空調温度管理 (冬23℃程度、夏28℃程度)		○
	③照明器具やエアコンフィルターの定期的な点検・掃除		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップなど)	・近場の災害復旧工事現場が多かった事と、役場などの電子化で訪問回数が減った事、及び全社員が省エネを意識して取組んだ結果、現場及び事務所ともガソリン消費量は目標を達成しました。	○
	②効率の良い配車・相乗りの推進		○
・軽油使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップなど)	・災害復旧工事や、砂防堰堤堆積土砂搬出工等で大型重機とダンプカーの稼働が多い日もありましたが、基準年に比べると重機作業などが比較的少なかった事や、重機のフルアクセル抑制やダンプカーのエコドライブなどを徹底して181.0%の達成となりました。今後も現場の化石燃料消費量は工事内容や現場数、及び現場の場所に左右される為、数値の評価は難しいが、この省エネ活動を継続していきます。	○
	②重機の定期点検整備の実施		○
	③重機のエコ運転の推進 (フルアクセルの抑制)		○
	④車両は不要なものを積んだまま走行しない		○
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	・分別の徹底で廃棄物の資源化に努めています。 ・年度末の事務作業も役場などの電子化で紙類が少なくなり大幅な減量が出来て214.6%の目標達成となりました。	○
	②コピー用紙などの節減 (ペーパーレス化・裏紙使用など)		○
	③資材梱包材の業者持帰り依頼		○
・建設副産物のリサイクル率向上	①できるだけリサイクルの為の分別をする	・現場発生の廃棄物は出来るだけ分別廃棄に努めています。 ・今期は道路改良工事で発生したコンクリート塊と木くずのみの発生の為、再資源化率は、100.0%となりました。 ・資材発注は残材が出ないように数量管理をしています。	○
	②できるだけ廃棄はリサイクル業者へ依頼する		○
	③残余材が発生しない様こまめな発注と在庫管理を徹底する		○
・水資源使用量の削減	①節水シールの表示による継続的な意識の高揚	・節水シールの表示などで、意識の高揚を図り、こまめな蛇口の開閉に努めて節水を図っています。	○
	②こまめな蛇口開閉による節水		○
・環境保全の取組推進	①事務所周辺の清掃活動	・常に事務所や現場周辺の整理整頓に心がけています。 ・水と緑の森林づくり件見なボランティアや道路清掃など、8件の地域貢献活動等に参加しました。	○
	②現場周辺の溝清掃		○
	③地域ボランティア活動への参加		○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上	①工事現場では環境配慮型重機 (低騒音・低排出)を使用する	・現場では、環境配慮型重機の使用を心がけた。 ・材料の仕入れは、計画的に行った。 ・各現場は施工計画書の環境対策の実施に心がけて取組んでいます。 ・工程確認を頻繁に行うなど、出来る限りの工期短縮に努めています。	○
	②仕様書同等の再生資材を調査して、 できるだけ再生資材を使用する。		○
	③各現場では騒音・振動・粉塵・濁水 などの予防に努める		○
	④工期短縮の創意工夫をする。		○

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	2024年度 目標値	活動内容
二酸化炭素 排出量の削減	192,884 kg-CO2	省エネ・省資源活動の推進
1.電気使用量の 削減	5,898 kWh	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理（冬23℃程度、夏28℃程度） ③照明器具やエアコンフィルターの定期的な点検・掃除
2.ガソリン使用量の 削減	6,765 L(事務所) 9,493 L(現 場)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど) ②効率の良い配車・相乗りの推進
3.軽油使用量の 削減	59,044 L(現場)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど) ②重機の定期点検整備の実施 ③重機のエコ運転の推進(フルアクセルの抑制) ④車両は不要な物を積んだまま走行しない
4.一般廃棄物の 削減	126.0 kg(全社)	①廃棄物の分別計量と記録 ②コピー用紙などの節減(ペーパレス化・裏紙使用など) ③資材梱包材の業者持帰り依頼
5.建設副産物の 再資源化率の 向上	95%以上	①できるだけリサイクルの為の分別をする ②できるだけ廃棄はリサイクル業者へ依頼する ③残余材が発生しない様、こまめな発注と在庫管理の徹底
6.水資源使用量の 削減	節水の励行	①節水シールの表示による継続的な意識の高揚 ②こまめな蛇口開閉による節水
9.自らが施工する 土木建築物の 環境性能の向上 及びサービスの 改善	環境活動計画 の遵守	①工事現場では環境配慮型重機(低騒音・低排出)を 使用する ②仕様書同等の再生資材を調査して、できるだけ 再生資材を使用する。 ③各現場では騒音・振動・粉塵・濁水などの予防に努める ④現場毎に工期短縮の創意工夫を実施する

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的に協会情報やインターネット等で最新情報を確認しています。

尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟もありませんでした。

現場での遵守状況は、安全パトロールなどで確認しています

当社の事業に関する主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです、

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出る	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし
浄化槽法	・定期点検、清掃、法定検査の実施 ・記録の保管	遵守

8.代表者による全体評価と見直しの結果

2010年7月からエコアクション21に取り組み始めて既に14年が経過し、全社員の環境意識も高く現場毎に異なる環境への配慮など自然に出来ています。

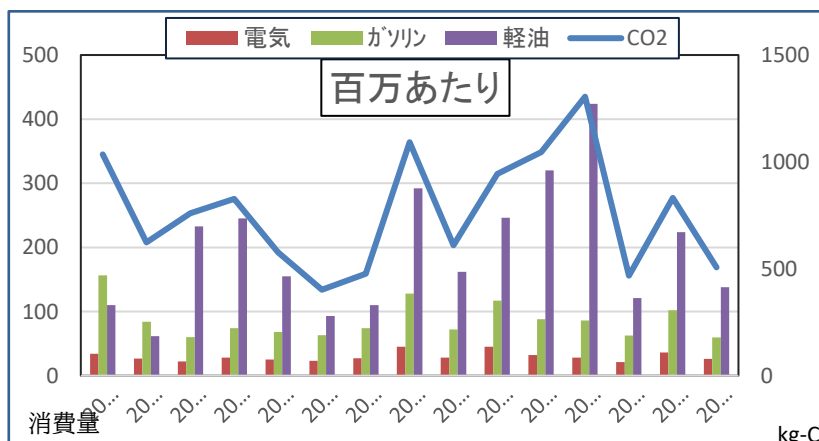
又、資材の再利用や廃棄物の分別による再資源化推進等、資源の有効活用を推進して有限な地球資源の保全に微力ながら努めています。

ただ、温暖化ガスとなる二酸化炭素は軽油の消費量に大きく左右される事が下記のグラフでも良く分かりますが、軽油消費量は建設業では事業活動パロメーター的な要素があり、単純な削減には限度があります。このため完工高当りの二酸化炭素排出量を目標とする原単位方式も検討しましたが、これは材料費の割合等に大きく影響されますので目標値には出来ないと思います。

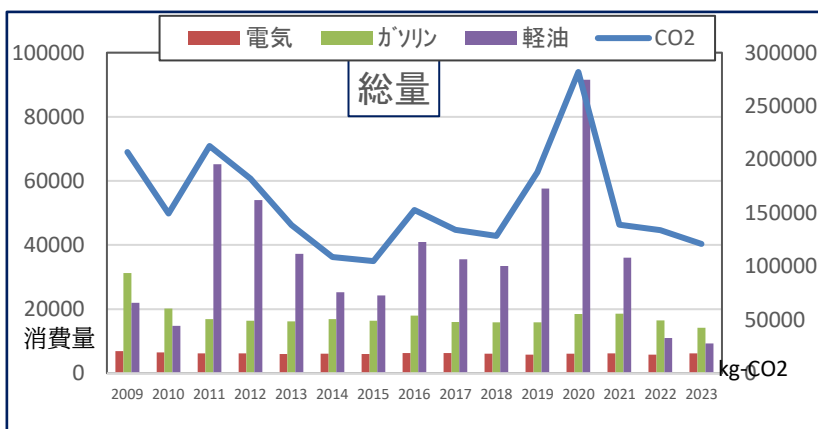
更に、車両ごとの燃費を目標にする方法も走行場所や積載物などで大きく変化しますので、数値目標として設定するには難がありそうです。

この為、これまで14年間試行錯誤しながら取組んで来て、自分たちで経験した結果を基に環境活動計画を策定し、不具合があれば改善するなど、PDCAサイクルを廻しながら継続した改善活動に継続して取組ます。

9.エネルギーとCO2の推移（2009年度～2023年度）



二酸化炭素排出量は、軽油の消費量に比例していますが、完工高当りの消費量は、年度の完工高に大きく左右されます。また、完工高は、燃料以外の建設資材の割合が大きく影響しますので、CO2との比較は難しいと思います。



二酸化炭素排出量は、軽油の消費量に比例していますが、軽油消費量は、工事の内容に大きく左右される為、削減が難しい場合が多くあります。ただ、我々が計画した省エネ活動を徹底する事で、無駄な消費は削減できますので、継続して省エネ・省資源活動に努力します。